

令和2年度東京農業大学校友会北海道支部定期総会（挨拶部分）

萬歳会長：

ただ今ご紹介いただきました、萬歳と申します。珍しい姓でありますので覚えていただくかと思いますが、昨年6月に前三好会長からバトンタッチを受けまして校友会の会長に就任をいたしました。どうぞよろしく願いをいたします。

39年の入学、まさに東京オリンピックの際に入学いたしました。43年の卒ということでございます。新潟の片田舎、米農家の出身でございまして、でも農林学校から農大という線で東京に出てきたということで大学生活を送ったという状況でございました。今般、会長になって各県支部に10カ所ほどお邪魔に上がりました。またブロック会議は5カ所でございますけれども、全部出席をさせてもらったところでございます。まさにあの先輩諸氏、母校愛の強い農大だなということを痛感いたしております。まさに実学と、実際に実験・実施をして、その中身を自信をもって娑婆に貢献するという建学の精神そのものであるというふうに思いますし、その建学精神にのって今の理事長、学長が学校運営を進められておるというふうにも実感を感じているところでございます。

今般は早坂支部長をはじめ、北海道支部の校友の皆さんからは大変なる校友会活動にご支援を賜っておりまして、厚く御礼を申し上げます。今後ともひとつよろしく申し上げたいと思います。

今ほどワンコイン募金の話がございました。皆さんから大変なるご支援をいただきながら、昨晚、実は常任理事会がございまして、全体で900数十万になっております。3回目の、あれは陸上競技場の監督でしたか、先般の理事会の後に贈呈をしたという経緯がございまして、この箱根駅伝、今ほど支部長からも話がありましたように、ぜひとも来年度には期待してほしいという話を承っておりますので、頑張ってもらいたいと思っております。この際本当に皆さんからも大変な浄財をいただいておりますことに感謝申し上げます次第でございます。これからも校友会が主体となつてつくりましたこのワンコイン募金、今後ともひとつ皆様方からよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

いま本当に社会は大転換期に入っているなという気がいたしております。いま少子化という、人口減少という娑婆、まさに社会構造が大きく転換しておるという状況ではなかろうかなと思います。一極集中というふうに、東京方面に人口が集中しているという状況、18歳人口が減少しているという、大学運営にも大きな影響が出てきている転換期にあるんだなという思いをいたしております。情報化という状況、あるいはグローバル化、「ヒト、モノ、カネ」がまさに世界を駆け巡るといふ、そういう状況もございまして。あるいは技術革新・イノベーションが進んでおる。私の出身の農業というのもスマート農業に、大変な流れが今進んでおるといふ状況がございまして。まさに世の中の転換期にあるという。その中でやはり実学主義というのが大事だなという、これは「研究・実践・実行」、こういうものがまさに身の入った人物をつくりだすというふうに思いま

す。これこそが建学の精神、実学主義だというふうに思っているところでございます。

その拠点になります「サイエンスポート」が先般落成いたしました。世田谷のど真ん中に立派な建物ができまして、いま研究棟にばらばらにあった学部の研究が引越しの作業の真っ只中でございます。まさにこれが学校の拠点になると、そういう時代なんだと、そして時代の状況を見ながら研究が進められてくるというふうに思っておるところでございますし、農学部に関係につきましても、実験実習棟が昨年の9月に落成をいたしました。この拠点をもって今後まさに人物をつくるという、そういうのが榎本武揚先生はじめ、横井時敬先生の教えであろうというふうに思っておるところでございます。

人口減少がまさに今後の私学運営に大きな影響を及ぼすというふうに思いますので、先ほど話がありましたように、卒業生が財産であります。この卒業生の応援がまさに学校を決めてくるという、そういう流れが出てくると思っておりますので、今後とも校友会というものがぜひとも母校の愛をもって優秀な学生が集まる、志願できるという、そういう学校づくりに協力をしていきたいと、皆さんからもご支援とご協力をお願いする次第でございます。

それから昨晚、実は農友会という現役学生の会がございます。体育団体と文化団体の皆さんを校友会がご案内申し上げまして、激励の懇親会をいたしました。私もだいぶ飲みまして、今日は二日酔いで頭がぐらぐらいたしておりますけれども、その際も話し合いましたように、「正代がもしかすると初場所に優勝か」と思っておりましたが、先ほどテレビ見ました。残念ながら負けましたけれども、明日明後日のことがありますので、まだ期待をするところがありますが、実は新潟出身の豊山なる者、これも本当は正代の援軍のかたちでやるべきだったのが、2日間負けてしましまして本当に残念であります。2月1日に披露宴を迎える状況でございます。私もそこへ案内を受けましたので出席いたしますけれども、このお二人がまさに農大だということで名声を世に広めてくれていると思っておりますし、こういうかたちで優秀な学生が農大に志願できるような、そういう学校づくりがこれからも進んでいくと思っておるところでございます。

それからAO入試の話がございましたけれども、いろいろ各支部から話ございましたけれども、入試選抜に関しましては大学当局にきちんと責任を持たせるべきだというのが文科省の考えだということをお聞きしていますので、できるだけ皆さんからそういう人物を農大に志願するように、ひとつ今後ともお願い申し上げたいと思っておるところでございます。

北海道支部オホーツクがございまして、まさにオホーツクの硬式野球部、大学選手権で4位という、輝かしい成績を残されたわけでございます。まさにこれも農大の名を全国に広しめたということではなかろうかと思っておりますし、それをもってまた次の段階に今年度も有終の美を飾っていただけることを希望申し上げる次第でございます。

今後ともひとつ校友会そのものを皆さんから育てていただきまして、学友を増やしていただくことを祈念申し上げます。現在は17万6,000名の校友がございます。各県に支部がございまして、それから準会員として12,800名の現役の学生がございます。この皆さんの力をもって今後の東京農大の将来が決するものと思っておりますので、今後ともひとつ絶大なるご支援を皆

さん方から頂戴したいというふうに思っております。

今日は初めて校友会の席に出てまいりましたけれども、これからもぜひとも皆様のご支援をお願い申し上げまして、私からの拙い挨拶といたします。ありがとうございました。